

女は誰かと手合せ

脚本 神波史男
撮影 仙元誠三
主題歌 泳ぐ人」まき子
明 大野轟一
協力 東映俳優センター

撮影 仙元誠三
主題歌「泳ぐ人」 東条千枝
唄 大野轟二
協力 東映俳優センター

泉谷しげる

益岡徹

藤田 圭

遠藤太津朗

原哲夫

繪沢萌子

成瀬 正

西山辰子
日高久

岩尾正隆

摩赤兒

阿藤海

成田三樹

芦屋雁之

監督作品

テ

製作配給：東映株式会社
カラー作品

photo by 朝倉俊博 design by 小島 武

洋の東西を問わず刑事ドラマは、TV・映画で数多く作られている。その中でも警察組織からギリギリはみ出さざるをえないアウトロー刑事たちのアクションは、「ダーティ・ハリー」「フレンチ・コネクション」以来急増に急増を重ねていたが、いま、その男たちの系譜に途方もない衝撃波をはらんだ映画が誕生した。この映画が放射する異様な興奮に君は耐えられるか。ここに描かれているドラマは、あくまでもフィクションだが、明日これは現実に取りうるかもしれない。迫真の犯罪（通り魔・無差別殺人）に挑む新しい主人公が、またひとり登場する。

一度狙った獲物は逃さない、犯罪者はもちろん、同僚からさえ恐れられるその男を、人は「野獣刑事」と呼ぶ。大阪、釜ヶ崎を背景に、刑事さえ犯罪者と紙一重、あるいは犯罪者以上の事件を踏まなければ生きてはゆけない、82巨大な現代の病根が、影の部分が、刑事の生きざまを通して、リアルに浮かび上がる。

雨の降る夜、赤い傘をさした女が次々と殺されてゆく大都会の蒼い闇を、獣のような嗅覚で駆けぬける刑事。凄まじい執念が犯人を追いつめ、血と銃弾の嵐をまきおこす。そして、たった一瞬の魔の瞬間が、男たちの愛を壊し、恐るべき無差別殺人へとつながってゆく。

現実のドキュメントかと思まがう大胆なオリジナル脚本は、「その後の仁義なき戦い」の神波史男。監督は、光と影のダイナミックな映像美の鬼才、「十三人の刺客」「その後の仁義なき戦い」「ヨコハマB Jブルース」の工藤栄一。撮影を「野獣死すべし」「ヨコハマB Jブルース」のシャープなカメラワークで知られる仙元誠三。

手に汗にぎる追跡シーン。大都会の喧騒の裏側にある冷やかな沈黙などを鮮烈な映像のうちに捉える。

主演は、「鬼畜」「復讐するは我にあり」TV「峠の群像」などで人気の高い緒形拳。工藤栄一監督とのコンビは、「影の軍団・服部半蔵」に続いて2度目だが、TV「必殺シリーズ」以来の仲であり、すっかりイキの合ったところを見せている。ヒロイン恵子には、「闇の狩人」などで演技派としての進境著しい、いしだあゆみ。そしてシャブに溺れてゆくチンピラ阪上を、「ええじゃないか」「爆裂都市」などの出演で、シンガーソングライターのみならず、俳優としても知られる泉谷しげるが、強烈な性格演技を見せている。

他に、藤田まこと、芦屋雁之助、成田三樹夫、蟹江敬三などベテラン演技陣が脇を固めている。

野獣刑事

血と夢の熱い夜を追う工藤映像。

映像の魔術師として知られる工藤栄一監督の最新作。これまでにない一風変わった刑事ものを狙って、大阪の夜をふんだんにとり入れて現実感の濃いハードな作品に仕上げた。連続通り魔による最初の殺人場面から、ラストのシャブ中毒者の兇行までの犯罪をタテ糸にして、刑事とキャバレーホステス、それに刑務所帰りのシャブ中が織りなす奇妙な愛をめぐりに表現。このジャンルの映画にキツチリと人間を描くことに成功している。

緒形・いしだ・泉谷の異色競演。

組織からハミ出したダーティな刑事が緒形拳、ピンクキャバレーのホステスがいしだあゆみ、それにシャブ中毒者の人殺しに泉谷しげる、という顔合せは近年、稀に見る異色中の異色キャスティングである。緒形はいま油の乗り切った個性派にして実力派ナンバーワンの男優、それにいしだは女優業に並々ならぬ意欲をみせはじめた期待の人、加えて泉谷はそのユニークな存在感と強烈な個性が武器の俳優だ。この三人が揃って、目いっぱい格闘に近いからみ合いを見せているのが、何ともリアルな迫力。とくに緒形といしだのセックス・シーンは強烈だ。